







# 第四十四回全日本高等学校書道教育研究会岡山大会へのご案内

第四十四回全日本高等学校書道教育研究会 岡山大会会長

延原 良明

(岡山県立岡山南高等学校校長)

第四十四回全日本高等学校書道教育研究会岡山大会の開催が迫って参りました。大会成功に向け、岡山県内高等学校で書道教育に携わる全教員が鋭意準備を進めているところです。

本大会のテーマは「[SHINKAI]」書教育の新たな展開を目指して」といたしました。これからの急激に変容する社会を生き抜くための資質・能力を養うことを目指し、「進化」・「心化」・「深化」の三つを柱に大会を開催いたします。(詳しくは最終案内をご覧ください。)

さて、ここのとこころのグローバルな社会の大変革は、かつて人類が経験したことのない猛烈なスピードで進展しております。ほんの二年ほど前までは、AIを表現するのに必ず人工知能という日本語を添えておりましたが、今では小さな子どもでもAIの意味すること

がだいたいは分かるようになりまし。先行き不透明」という言葉をマスコミがよく使いますが、文字どおり数年先さえ読めない社会になつてきたことを実感しております。

そうしたグローバルな社会の大変革の中で、日本の教育も変わらざるを得ず、文部科学省が明治維新以来の教育改革と言うほどの大改革が断行されつつあります。既成の物事を変えていくには莫大なエネルギーが必要となり、様々な問題が惹起されておりますが、代表的な改革である大学入試改革が一年後に迫つてきているところです。

このような変革の中で変わつてはならないのは、日本の伝統と文化を尊重する態度を養うことでしょう。その態度を養うことが、他国の伝統や文化を尊重し合える持続可能なグローバル

な社会の実現に繋がります。そういう意味からすると、高等学校の全教科の中でも、特に芸術科書道の存在意義や果たすべき役割は非常に大きく、全国の高等学校で書道教育に携わつておられる方々が一堂に会して研鑽を重ねる本大会は、たいへん意義深いものであります。

今回の授業研究では、岡山県から三人が授業を公開させていただきます。研究発表では、岡山県から三本、県外から三本の発表を計画しており、ご参加の皆様方の活発な研究協議に結びつくものと期待しております。

また、二日目の記念講演会には「書の魅力と文学」と題し、日本書跡史の権威であり、岡山県高梁市出身の九州国立博物館館長の島谷弘幸先生にご講演をいただけることになっておりますのでご期待ください。

岡山にお越しの際には、日本三名園の一つである後楽園や古い街並みの倉敷美観地区を是非ともお訪ねいただければと思います。そして、岡山は山の幸、海の幸に恵まれております。十一月は白桃やマスカット、ピオーネなどの果物の時期ではないのが非常に残念ですが、他にも瀬戸内の新鮮なお魚や有名なB級グルメもありますので、岡山らしい味を堪能していただければ幸いです。

会場の「ピュアリティまきび」は、岡山駅から徒歩約七分の位置にあります。岡山は中四国の結節点であり、たいへん交通の便が良いところですので、大勢の皆様方のご来岡を心からお待ちしております。



入試・就職に有利！履歴書にも書ける資格！

## 文部科学省後援

## 硬筆・毛筆書写技能検定

- 試験日
  - ◎令和元年度第2回 11月10日(日)
  - ◎令和元年度第3回 2年1月26日(日)
- 試験地
  - ◎全国主要都市。10名で試験会場設置可
- 受験料

- ◎大学・短大の入試で優遇、高校の増加単位に認められ、資格取得のため、履歴書に書け、就職、進学に役立つ。
- ◎受験者必読書刊行…申込みは検定協会へ
  - 硬筆書写検定手びきと問題集 (定価 2,000円・別途送料)
  - 毛筆書写検定手びきと問題集 (定価 2,300円・別途送料)
- ◎願書請求方法
  - ホームページより願書請求ができます

一般財団法人  
**日本書写技能検定協会**  
 〒170-0005  
 東京都豊島区南大塚3-41-3  
 TEL03(3988)3581(代)  
 FAX03(3988)3528  
<http://www.nihon-shosha.or.jp>

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級
硬筆	6,500円	5,000円	3,500円	3,000円	2,500円	1,500円	1,200円	900円
毛筆	7,000円	5,500円	4,000円	3,400円	3,100円	1,700円	1,400円	1,000円





# 岡山大会に向けて

第四十四回全日本高等学校書道教育研究会 岡山大会運営委員長

平松 啓吾

(岡山県立岡山南高等学校)

第四十四回全高書研岡山大会を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。五年前に本部から岡山県での開催を打診されました。受けるかどうかの話し合いの中で、これまで未開催であること、不定期ながら採用試験が実施され、教諭の数が比較的多いこと、何より大会開催によって岡山県の書道教育力を高めることが期待できることから、宮崎大会の次を受けることとしました。その時から先行大会を参考にしながら少しずつ準備を進めてまいりました。

社会は私たちの想像を超える速さでグローバル化・情報化が進み、AIは急激に発達しています。そうした時代の中で昨年三月告示された高等学校新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向

けた取組が求められています。教育の転換期に開催する岡山大会のテーマは、「SINKA(書教育の新たな可能性を求めて)」と決まりました。このテーマのもと授業研究は、A「進化」「漢字の書」空間把握を印との関連から考える表現活動、B「心化」「仮名の書」他教科との連携を通して生徒の感性に働きかける学習活動、C「深化」「漢字仮名交じりの書」「間」を捉えて紙面構成力を向上させる表現活動」の三本立てとしました。二日目の研究発表も三本立てとし、A「ICT活用からアプロ

でそれぞれ二本ずつの発表を行います。分科会Aでは参加の皆様には体験していただくコーナーも設ける予定です。十五日は九州国立博物館館長の鳥谷弘幸先生をお迎えし「書の魅力と文学」と題してご講演いただきます。ご期待ください。

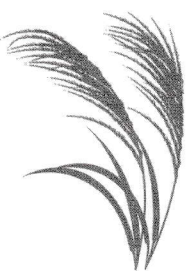
十五日は九州国立博物館館長の鳥谷弘幸先生をお迎えし「書の魅力と文学」と題してご講演いただきます。ご期待ください。

「ICT活用からアプロチする生徒の主体的活動」、B「地域の文化から生徒の感性に働きかける学習活動」、C「鑑賞における主体的・対話的で深い学びを引き出す学習活動」の内容

併催展として、第三十三回岡山県高校生書道展を天神山文化プラザで開催しています。今回は「岡山道遥」というテーマでの企画展も予定しています。また、岡山県書道連盟の作家と高校生のコラボによる「親しみの書」が山陽新聞社のさん太ホールで展示されています。さらに、大会期間中、岡山市で三年ごとに開催される国際現代美術展「岡山芸術交流2019 Okakayama Art Summit」が、岡山城・岡山後

倉敷美観地区を訪れたなら大原美術館とともに「語り座大原本邸」もぜひ訪ねてみてください。その他倉敷市児島のジーンズストリート、上田秋成「雨月物語」にも登場する吉備津神社(桃太郎のモデル吉備津彦命が祀られています)や天空の城備中松山城などなど魅力的な観光スポットがたくさんあります。ぜひ訪れてみてください。

では、晴れの国岡山で全国の皆様方のご参加を心からお待ちしています。



**書道・国語専修 書道教育コース**

**幼・小・中・高校(書道) 現任教員採用合格**

高等学校(書道・国語)と共に、幼稚園・小学校・中学校・学校図書館司書の教員免許状が取得できる。

平成30年度教職就職率含む **100%** 資格を取得して地元就職

『改組新第5回(平成30年度)日展』

- ・岐阜女子大学大学院在学中2年連続入選  
文化創造学専攻 文化創造学専攻  
日本文化分野 平成30年度卒業  
上山 恵里さん(三重県出身)  
「良寛詩」行草書体・2×8尺
- ・岐阜女子大学在学中初入選  
書道教育コース 平成30年度卒業  
安里 葉奈美さん(沖縄県出身)  
「万葉歌」行草書体・2×8尺

**岐阜女子大学・大学院**  
〒501-2592 岐阜市太郎丸90番地



# 授業研究

## A「書道Ⅱ」「創作」 創作への道程

岡山県立岡山一宮高等学校  
教諭 北村 博典



この度、全高書研岡山大会において、研究授業をさせていただくことになりました。

本校は、昭和五十五年四月、岡山市内普通科総合選抜校として開校し、今年で創立四十周年を迎えます。自らの可能性を信じ、困難に挑戦する「フロンティア精神」を掲げ、不断の努力と活気あふれる校風を創りあげてきました。校訓「自主自立」「文武不岐」のもと、生徒は学業と部活動の両立、生徒会活動、社会貢献活動、学校行事を通して、日々研鑽を積んでいます。現在、一学年九クラス(普通科七クラス、理数科二クラス)、全校生徒は一〇七七名在籍しており、第四期SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の研究指定

を受けています。

本校芸術科は、音楽・美術・書道から一科目を選択し、第一学年で「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」を二単位必修で行います。第二学年では普通科文系対象に「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」が選択で展開されています。第三学年においては、芸術系進学希望者対象に、芸術の授業が選択できるような設定されています。

今回の授業研究では、書道Ⅱで行う単元「創作」の中から、作品と印との関係に焦点をあて、作品中に存在する空間意識の多様性について考えます。書道Ⅱ「目標」に、生徒が主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うというものがあります。人が行う創造行為が、どのように自分たちの生活や社会と関連し、また意味を持つていくのか、最終的にはそのような問いや発見についても書を通して考えていければと思っています。創作は個の創意に基づく楽しい表現活動ですが、自分が表現しようとする焦点がしぼりきれなかったり、作品構成にマンネリズムが起りますと、創作はよくわからぬ難しいものという印象で終わる傾向があります。そのような創作への抵抗感を軽減し、創作の楽しさを多面的に体験できる機会にしたいと思っています。

印は、大きさ、形、文字数の異なる印を制作し、墨書作品は、いくつか提示した表現項目から、一つもしくは少数項を選び、表現をしようとした作品制作を行いました。そこから生まれた作品に前述の印を押し、また印を替えることで、作品内で変化する書と印との関係性、自他の感覚のちがいが、その多様性に注目しながら進めていきます。

自らの意図を表現へつなげていくことは、自らの意思で自らの道を切り拓いていくことを意味し、そのような模索と発見を創作体験から体得し、予測不可能な社会を心豊かに生きぬいていってもらいたいと願っています。岡山大会では全国の先生方からご指導、ご助言をいただき、今後の指導に生かしていきたいと考えています。よろしくお願いたします。

## B「書道Ⅰ」 「仮名文字」に託す 日本の四季

岡山県立倉敷商業高等学校  
教諭 梶谷 純子



この度、全高書研岡山大会において、「仮名の書」他教科との連携を通して生徒の感性に働きかける学習活動」の研究テーマのもと、書道Ⅰにおける「仮名文字」に託す日本の四季」で研究授業をさせていただきました。

本校は、明治四十五年に創設され、今年で創立百八年を迎えます。全日制課程三学科、商業科(五クラス)、国際経済科(二クラス)、情報処理科(二クラス)を併せ持つ単独商業高校です。創立以来二万七千人の卒業生を各方面に輩出しています。故星野仙一氏もその一人です。その力は「倉商ブランド」として、地域から大きな信頼と期待が寄せられています。

校訓「至誠剛健」の気風を体得させるとともに、地域のビジネスリーダーとして社会に貢献できる人材育成に努めています。白壁の町として有名な倉敷美観地区が徒歩圏内にあり、そのバックボーンに裏付けられた学習活動が本校の大きな強みになっています。

芸術科の授業は、二年生で「音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ」(二単位)の三科目の中から選択し、履修します。芸術科教諭三名は他校との兼務で、三名のうち二名が本校勤務です。(音楽・書道が本務校)就職希望者が約四割おり硬筆学習への関心も高く、三年生で「実用書道」(二単位)

創業 1805年 (文化二年)

# 株式会社 墨運堂

〒630-8043 奈良市六条1-5-35  
Tel:0742-52-0310 / Fax:0742-45-6880

墨に関する情報満載！  
墨運堂ホームページ



膠系の液体墨に使用されている「塩化カルシウム」は、固形墨をそのまま磨りおろしている「生墨」には、一切含まれておりません。

- CB11-25 磨りおろし生墨 古墨 普通濃度/250g ¥3,000 (本体価格)
- CB7-25 (濃墨) 磨りおろし生墨 古墨 濃墨/250g ¥5,000 (本体価格)



**Kuretake**  
株式会社 呉竹

〒630-8670 奈良市南京終町7-576  
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070



を選択できるカリキュラムになつていきます。

昨年の西日本豪雨では、倉敷市真備町をはじめ県内各地に甚大な被害が出ました。自然豊かな私たちの町が一晩で海に浮かぶ小舟のように濁流に呑み込まれてしまい、報道される私たちの町の姿に言葉を失いました。本校教職員、生徒の多くが被災し、今なお不自由な生活を強いられています。そのような状況の中、「令和」の時代が幕を開けました。

今回の授業研究では、今を生きる高校生が日本の四季をどう捉えているのかを問いかけてみたいと考えました。美しい自然に心奪われる経験、日々の学校生活の中で感じ取る体験など多様な価値観が存在し、その価値観が共生していかなければならない社会の中で高校生が感じていることを伝えてほしいと思いをしました。仮名の文化的背景や時代性を知り、仮名特有の運筆法を習得した上で、生徒の能動的な表現活動に繋がっていきます。

我が国最初の随筆である「枕草子」を表現の動機として取り扱い、現代の高校生の感性で自ら言葉を紡ぎ出し、その思いを仮名文字に託していきます。学習方法としてトレーニングペーパーを用いて草稿を作成し、さらに芸術科美術選択者の下絵に合わせて構成を考えていきます。

学習過程の中で、図書部・国語科・芸術科美術との連携を図り、毎時の感動の蓄積を大切にしたい。総合的な感性の育成を目指していきます。地元倉敷の多彩な織維製品を使用している工夫もご覧いただければと思います。全国の先生方からご指導、ご助言をいただき、今後の指導に生かしていきたいと考えています。どうぞよろしく願います。

### C「書道Ⅰ」 「自分の思いを言葉に込めて」日本文化から学ぶ書表現の普遍性

岡山県立総社高等学校  
教諭 渡邊 英俊



この度、全高書研岡山大会で研究授業をさせていただくことになりました。

本校は二年前に創立百周年を迎えた伝統校です。もともとは家政科を主とした女子校から始まっておりませんが、現在は男女共学、普通科と家政科の併設校

で、長年にわたり地域の教育を支えてきた学校です。県職員や総社市職員の本校卒業生の占める割合は非常に高く、地元で活躍する卒業生を多く輩出してきました。各学年家政科一クラス、普通科六クラスの計七クラスで八四〇名定員です。また、学校周辺には古代山城の鬼ノ城や備中国分寺をはじめ、多くの古墳群など、史跡に囲まれた土地柄でもあります。

芸術科の授業については、普通科の生徒は音楽、美術、書道から一科目選択で、一年次二単位必修、文系では二年次一単位、三年次で二単位を履修することができます。

また、家政科では一年生で三科目のうち二単位を履修し、二年次で残りの二科目のうちからもう一科目を履修するようになっています。

今回の研究授業では書道Ⅰの「漢字仮名交じりの書」について発表させていただきます。平成三〇年告示の高等学校学習指導要領の大きな目標や内容である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をいかにして実現していくのかという命題に、私として一つの提案ができればと思っています。

特に今回は、国語の授業で読んだもの、あるいは通常国語教材として読まれている日本文化

論を読み込み、われわれ日本人の美意識や、美的感覚を理解した上で、それを作品制作にいかすことにより、「深い学び」に繋がっていくことを目標にしています。

この授業では、俳人長谷川權氏の著書「和の思想」の中から、「間」についての記述を読ませ、そこから書における「間」や言葉の「間」とは何かを考え、それを自分の作品制作に反映させることに取り組んでいます。授業の中では西洋芸術と日本芸術を比較するために音楽を聴いたり、絵画作品を見たりして、時間的あるいは空間的「間」について感じ、「余白」というものをしっかりと意識します。そこから自分の書こうとしている言葉の「間」やそれを表現するために生じる筆の動きの「間」に考えを広げていく過程を見ていただきたく思います。書を学ぶというところは、書道の授業だけでなく別のところで学んだこともいかにすることである、ということを生徒が実感してくれば、と思っています。

全国の先生方のご指導ご助言をいただき、今後のより一層の授業改善に繋がっていきたくと考えています。どうぞよろしく願います。

### 分科会

### Aタブレット機器 活用の実践と考察 〜深い学びに誘うために〜

兵庫県立青雲高等学校  
教諭 前田 典子



この度、全高書研岡山大会の「ICT活用からアプローチする生徒の主体的学習活動」の研究テーマのもと、「タブレット機器の活用の実践と考察〜深い学びに誘うために〜」というタイトルで研究発表をさせていただきます。

今回の研究発表は、書道の授業内においてタブレット端末を活用した授業実践、および、タブレット端末を使用したこのからの書道の学びの展望について発表させていただきます。

今回の研究の出発点は、ICT化が進み、子どもたちの手書きの文字離れ、書道離れが危惧さ



れる時代の中、タブレット端末を使用して書道の授業を行うことで、生徒たちに書道を身近に感じ、興味を持ち主体的に学んでほしいという思いや、書の表現能力向上に効果的で効率的な学習を行いたい、という考えから始めました。はじめは、タブレット端末に書の写真や画像を入れて、鑑賞の授業や授業の導入部分でテレビモニターに映して生徒たちに見せる、という使用方法から始まりました。そして次第に、タブレット端末の授業内での使用頻度を少しずつ増やしていき、それまで教師が使用していたタブレット端末を、生徒に使用させて授業するようになり、今回の研究発表の授業内容までになりました。

この授業実践を行う中で私が大切にすることは、生徒が古典の臨書を対話的に主体的に学んでいくことで、古典の臨書の要点を皆で考え、共同で学びを深めていくということです。その共同学習の中でタブレット端末を使用することで、生徒は効率よく表現方法を他者へ伝えることができ、生徒個人は学びを深め、表現力を高めることができました。

タブレット端末を使用しての授業を始めた当初は、普段の書道授業で使用しない ICT 機器を使って授業するので、生徒たちはタブレットには興味を持つけれど、その先の書道の主体的学びにつながるものが多く、授業を行った後、どうしたら生徒たちがタブレット機器そのものではなく、授業内容に興味を持つようになるのかと、反省するばかりでした。授業の内容の見直しや試行錯誤を繰り返す中で、教師や生徒がタブレット端末を使用して授業する頻度を増やし、タブレット端末を使用している授業が生徒にとつての日常になることで、タブレット端末への興味から、書道の授業内容そのものについて興味を持つようになり、さらに、他者と対話しながら学ぶことで、タブレット端末で得た学びを、より深いものにするのができたと思います。

また、今回の研究発表では授業実践報告のほかに、タブレット端末の活用について今後の授業で活用が増えていく可能性がある、教材への QR コード使用や、Web コンテンツ使用についても紹介させていただきます。

今回、全高書研岡山大会へ兵庫県から参加させていただき、発表する機会をいただいたことに感謝するとともに、研究協賛では多くの先生からご助言をいただき、これからの教育活動に生かしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

## A 書画カメラの活用と工夫 〜実演を交えた意見交流〜

岡山県立玉野高等学校  
教諭 西川 佳宏



「ICT」という響きは研修案内やリーフレット、テレビのコマーシャルを通じて、時代の先端を思わせる響きとして私たちを刺激してきます。高額な資

金が出られ、先を争うかのように整備や実践が進められる現状、殊にアナログの世界で生きてきた私には、未習得のスキルにあまりに多いことが心の負担となつていきます。しかし、この技術革新のおかげで、究極のアナログ活動とも言うべき「書道」の授業に大きな貢献がもたらされた一面があります。それは「見せる」という純粋な基本行為がクオリティーを格段に上げたという面です。

かつて、運刀について説明するために厚紙で印刀の模型を作ったこと、筆の持ち方や命毛の動きを伝えるために、周囲の生徒を集めながら順に教室を巡り、気付けばチャイムが鳴ってしまった苦い経験。今思えば、生徒に「いかに見せるか」に苦心してきた二十年でした。新採用の研修では OHP の使用法の研修を受けたこともあり、サインペンで透明のシートに書き、それをランプでスクリーンに投影するという素朴な技術によるものですが、それでは墨色や質感を表現することなど出来るはずありません。

しかし、時代は遷り、大型の液晶ディスプレイとハイビジョンカメラの組み合わせによって、いとも簡単に高詳細の「ほぼ現物」、いや、肉眼では捉えられないような繊細な事象でさえ同時に伝えることが出来るように

なつたのです。生徒の「主体的」な活動を促すにはまず、確かな視覚的情報、ポイントを絞った明確で具体的な視点を示すことが必要だと私は考えていますが、特に揮毫や運刀について説明する場面では、教師自身が注意を払っているポイントを分かりやすく示し、初見でもついていくことの出来る速度で解説を交えながら実演することが効果的であることは言うまでもありません。「うまつ！」という声が教室から漏れた時は、自分の目に生徒の目が同化し、授業の雰囲気が一気に高まったことを感じます。歩くすべを手に入れた生徒は、興味がわく限り自分の足でいろいろなものを探り、自分の目で情報を収集し表現するでしょう。それらをどのように結び付け落とし込んでいくかが彼らにとつて期待される点であり、それを支援するのが私たちの仕事だと言えます。

分科会では、私が日ごろ使っている機材を持ち込み、それを実際に使いながら参加型の交流をしたいと考えています。特に書画カメラなど映像機器の導入を考えていらっしゃる方、見せ方を模索していらっしゃる方、機器に苦手意識のある方、あるいは逆に、日ごろ実践し、上手くいくコツを掴んでいらっしゃる方。いろいろな立場の方にご参加いただき、発表者自身も成



長したいと考えております。体験コーナーも設けますのでどうぞお立ち寄りください。

### B地域の先人の生き方から自己を見つめる

### 〜十年後の自分への手紙〜

岡山県立倉敷南高等学校  
教諭 板持 裕子



この度、全高書研岡山大会の分科会Bで「地域の文化から生徒の感性に働きかける学習活動」という研究テーマのもと、「地域の先人の生き方から自己を見つめる〜十年後の自分への手紙〜」の実践を発表させていただきます。

倉敷は、かつて江戸幕府の直轄領「天領」でしたが、明治維新後、発展から取り残されます。そのような状況から脱却しようと大原孫三郎が中心となり、明治二十一年（一八八八年）代官

所跡に倉敷紡績（クラブウ）を創設、昭和五年（一九三〇年）児島虎次郎らの活躍により、日本初の私立西洋近代美術館である「大原美術館」を設立しました。大原家が文化や経済にもたらした業績は大きく、様々な面で倉敷の発展に寄与してきました。

本校は、昭和四十九年倉敷地区の普通科進学校として創設され、今年で創立四十六年目。「自立」「友愛」「進取」を校訓とし、国際化する社会に貢献・活躍のできる人材育成を教育目標に掲げています。

平成三十年（一九四七）からは、「Mianini-PROJECTS」〜未来を拓く志と力〜に挑戦し、育てたい生徒像（ディプロマ・ポリシー）として、身に付けたい「二つの精神（こころ）」（進取の精神・町衆の精神）と「三つの力」（知性の基盤となる力・課題を発見・解決する力・人間関係を形成する力）を挙げ、「徹底した教科の学び↓探究的活動↓グローバル活動↓成長と進路実現へ」という学びの仕組みに沿い、以下のような三年間のキャリア教育を担う授業を行っています。

① 総合的な学習の時間

【Miananix】

② 【L-T】

(learning time の略)

③ 特別活動（HR活動）

… LHR

④ 学校設定科目「キャリア」

科目名「キャリアA」

（二年次全員履修一単位）

科目名「キャリアB」

（三年次希望者）

一年次生は、前述の①②③の三つの時間を有効に活用しながら探究的活動を行い、キャリア探究科と年次、教科が連携して本校が育てたい力を多方面から伸ばそうとしています。

また、これらの活動を通して本校では、自身の成長を自分で評価するしくみを作成し、「倉敷南高校21世紀型能力ルーブリック」としてまとめています。

特に私は、ルーブリック中の、「進取や町衆の精神（二つの精神）」に着目し、キャリア教育（前述①②③）と「Miananix-PROJECTS」を「書道I」の授業に生かす手はないかと考え、この単元を設定しました。

現在、スマホにて無機質な活字がボタン一つで瞬時に相手に送信されます。そうした現代においてこそ、心の奥底にある思いや言葉を表現し、相手に伝えるという「筆文字による手紙」というツールが重要になります。令和の時代を生き抜いていく生徒たちにとって今回の取組が「十年後の自分」がいかに生きるかということを考えるきっかけにしたいと思っています。

また昨年の平成三十年七月豪雨では、倉敷市真備地区をはじめ

めとし、岡山県でも甚大な被害が出ました。本校教職員、生徒の何人かが、今なお不便な生活を強いられています。「生きるとは何か」を改めて考えさせられた出来事でした。「より自分らしく生き、その生き様を後世に伝える」、それが、この「倉敷」に生まれた使命だと思います。

さらに、地域や歴史上の先人の手紙（書や内容を味わう）や岡山県産の「備中和紙」「横野和紙」などの質感も味わいます。全国の先生方からご指導、ご助言をいただき、今後の指導に生かしていきたいと考えています。どうぞよろしく願っています。

### B学校所蔵資料を用いた漢字仮名交じりの書の実践

### 〜一世紀の時を超えて〜

京都府立鴨沂高等学校  
教諭 西村 大輔



この度、全高書研岡山大会分科会Bにおいて、分科会研究テーマ「地域の文化から生徒の感性に働きかける学習活動」に沿って実践した授業「学校所蔵資料を用いた漢字仮名交じりの書の実践〜一世紀の時を超えて〜」の報告をさせていただきます。

本校は、明治五年に開設された「新英学校及び女紅場」から続く一四〇年以上の歴史と伝統を持ち、京都御苑に隣接する文化的に恵まれた環境に立地する学校です。また、平成三十年八月に改築完成したばかりの校舎は、ICT教育環境等の施設が充実しています。

本校は、全日制普通科高校で二年次より発展及び標準コースが設定されており、芸術科は、一年次芸術I（音楽・美術・書道）必履修、二年次芸術II（芸術Iと同じ）標準・京都文化コース必履修、三年次芸術III（芸術I・IIと同じ）標準・京都文化コース選択履修となっております。

さらに、特色ある教育活動の一つとして、京都文化に関わる探究的な学びである「鴨沂の京まなび」を「総合的な学習の時間」や「京都文化コース（二年次より）」等において展開しています。本授業では、分科会Bのテーマである「地域性」を更に掘り下げて、「学校所蔵資料を活用する」というテーマを設定し実践に取り組みました。本校は、歴



史文化文化都市京都の中心にあつて、幸いにも戦災に遭わなかったことなどにより、絵画や考古学的資料、六万冊の書物等の創設以来の膨大な資料が保存された全国的にも稀有な学校です。

そうした膨大な学校所蔵資料の中から、西郷隆盛書「偶成」(軸・複製)と、大正八年にかつての鴨沂生徒が墨書した文章「作文の神髄」(軸・真筆)を教材化し、第二学年書道Ⅱ「漢字仮名交じりの書」の単元として設定し授業実践に取り組みました。

本実践の要旨としては、①「学校資料の活用」、②「教科横断型の授業」、③「小論文の素材化」、④「外部指導者の活用」の四点が挙げられると思います。また、「対話的・主体的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を目指して実践しました。

岡山大会では、本授業の実践報告や成果、課題について発表するとともに、全国の諸先生方からの御指導や御意見を賜りたいと存じますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。末筆ながら、岡山大会の御成功を心よりお祈りいたします。この度は、貴重な機会をいただきました誠にありがとうございました。

## C「生徒のまなざし」を切り拓く段階的指導

岡山県立玉島高等学校  
教諭 安原 亜悠



この度、全高書研岡山大会の分科会Cで「鑑賞における主体的・対話的で深い学びを引き出す学習活動」という研究テーマのもと、高等学校一年次による、書道Ⅰの漢字の書のまともに行った鑑賞活動と、中学校三年生の国語科の授業で書を対象に扱った言語活動の実践報告をいたします。

実践例として発表させていただいた、岡山県立津山高等学校は普通科と理数科を持つ全日制で、今年創立百二十五年目を迎える歴史と伝統を誇る、岡山県屈指の進学校です。校訓「畏天敬人」校風「質実剛健」「文武両道」のもと、生徒たちは自身の有する個性や能力を発揮し、日々勉学や研修、部活動に励み、揺るぎない人間力を育んでいます。また、創立百二十周年の節目には

併設中学校として岡山県立津山中学校が開校され、六年間を見通した系統的な教育活動をもとに中高の融合が図られています。津山高等学校は一学年六クラス(普通科五クラス、理数科一クラス)で全校生徒は七百二十名で、併設の津山中学校は一学年二クラスで全校生徒は二百四十名です。

音楽・美術・書道の三科目が選択必修で、一年次に書道Ⅰ(普通科二単位×二講座、理数科二単位一講座)、二年次に書道Ⅱ(普通科一単位×四講座)を開講し、美術と書道の教諭が中学校を兼務しています。

日頃、生徒たちが休み時間に各教科の既習内容の教え合いを行っているところを見て、既習内容の定着には他者に伝えるという活動が効果的ではないかと考え、今回の実践にいたしました。

これまで、書道Ⅰにおける漢字の書のうち、楷書の学習のまとは創作活動を扱ってまいりました。この表現の時間を鑑賞の時間に替え、既習した古典の中から好きな古典の一つ選択し、そのよさについて見方・考え方を働かせて、他者にどのように伝えるかを試みました。題目の「生徒のまなざし」は、鑑賞における見方・考え方、分析における手法という意味で使用しました。また、津山中学校三年生に対し、国語科の授業の中で、現代

の書を鑑賞対象に挙げて、観点を提示して言語活動を行いました。これは、中高の系統的な教育活動の一つとして設定しました。卒業間近の三学期に、書写の授業で提示してきた用筆・運筆、字形や紙面構成とは異なる表現で書かれた書を鑑賞することで、生徒にとっては書道の多様な表現を知る機会になり、芸術科三科目の選択にも有用と考えました。

今回、このような場での発表の機会をいただいたことに感謝するとともに、研究協議では多くの先生方からのご指導・ご助言をいただき、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

## C「主体的・対話的で深い学び」を引き出す鑑賞学習にむけて

### 福岡県における「書道Ⅰ」の鑑賞学習の状況と授業改善の取組



福岡県高等学校書道教育研究部会は、現在、一四二校が加盟し、研修会や研究授業、授業作品コンクール等の事業を行い、書道教育の振興や教科指導力の向上を目的として活動を行っています。

今年度より、ホームページの運用を開始し、今まで行っていたUSB配布による教材の共有や機関誌「書教育福岡」の発行をホームページ内で行うことにしました。書道教員が減少していく中で、効率的な部会の運営と教員同士がチームとして書道授業の研鑽を積み、個々の指導力を高めていくことが課題となっています。

また、本部会では平成二十八年十二月の中央教育審議会答申を踏まえ、二年前からアクティブ・ラーニングや学習評価に関

福岡県高等学校  
書道教育研究部会



する研修会、研究授業等を実施してきました。前年度の夏季研修会では「鑑賞学習の実践内容・方法」について情報交換を行い、各自で作成しているワークシート等を持ち寄り、グループや全体で交流し、実践に活かせるよう取組を進めてきました。この

ような取組により、様々な鑑賞学習の内容・方法が共有され、他校の実践を授業で取り入れている先生方も少なくありません。一方、研修後のアンケートにおいて、「グループ活動や評価方法等に関して、自分自身の授業の具体的な改善策が知りたい」という意見もありました。

平成三十年七月に公開された高等学校学習指導要領解説総則編では、「育成を目指す資質・能力を確実に育むため、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」が明記され、学習の質を一層高める取組が求められています。

このような状況を鑑み、今年度の夏季研修会では、授業改善の視点から三校の「書道Ⅰ」の鑑賞学習に関する実践報告を行いました。今回、実践した授業改善のテーマは左記のとおりです。

・主体的・対話的な学びの実現に向けて、篆刻の学習 印の役割を考えた鑑賞授業、

・作品との対話によって自己の生き方を考える、井上有一の生き方と書表現の関連性から

・「仮名の書」の単元デザイン、鑑賞活動を柱に繋がりのある授業を組み立てる、

それぞれの学校や生徒の実態を踏まえ、これまでの鑑賞学習を新学習指導要領解説総則編に示されている「授業改善を進める際の指導上の留意事項」の五つの観点から見直し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を行っています。

今回は、本県の「書道Ⅰ」における鑑賞学習の状況と書道部会での取組を進めている鑑賞学習における授業改善の取組について報告させていただきます。研究協議では、多くの先生方からご助言いただき、部会としての取組をさらに発展させていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

### 福島県 事務局報告

#### 平成三十年度活動報告

##### ●県高書研理事会

(五月二十一日 福島東高校) 県高書研関係、県高文連関係、

全高書研関係の活動内容の確認。

・前年度事業報告、決算報告、今年度の事業計画、予算計画の確認。全高書研福島大会組織図並びに規約、予算等についての協議。

##### ●芸術科書道実態調査

(五月二十一日～六月六日) 書道の授業を開講している学校四七校を中心に実態調査を実施、全高書研へ報告。

##### ●県高書研研究大会並びに総会

(六月十九日～二十日 福島東高校) 研究授業と研究発表。前年度事業報告と会計報告。今年度事業計画と予算案審議。

全高書研福島大会のテーマ、研究授業者と研究授業内容、分科会、他県からの発表者、予算案各係担当、役割分担等についての意見交換。

高文祭書道展、福島県高校書道展、書道生徒実技講習会、書道生徒強化練成会についての協議。

##### ●書道生徒実技講習会

(八月三日～五日 福島県青少年会館) 二泊三日で、高文祭書道展出品作品の錬成会を行った。

##### ●第三十七回福島県高等学校総合文化祭

(十月五日～八日 とうほうみんなの文化センター) 出品校三五校、出品点数二四七

点の優秀作品の展示を行った。

##### ●教員教科指導研究会

(十月二十四日 福島東高校) 「課題手本の作り方」講師 白河高校 佐藤真紀

教員の指導力向上のため、ICTを用いた臨書課題手本作りの技法を学んだ。

##### ●書道生徒強化練成会

(一月五日～六日 郡山自然の家) 高文祭書道展で全国大会への参加が決まった生徒の強化練成会を実施した。

##### ●第五十三回福島県高等学校書道展

(二月八日～十四日 コラッセふくしまアトリウム) 出品校二十一校、出品点数一四四点の作品展示。

##### ●県高書研会報発行

会報十一号を三月に発行した。

##### ●その他、高書研ホームページ

https://sites.google.com/jcs.ed.jp/fukushima-akky

##### ◎全高書研福島大会に向けて

令和元年度の初めには、研究授業者、分科会発表者、誌上発表者を決定し、その内容についての意見交換会をする等、準備を進めている。組織も確定し、各係への委嘱も行った。今後は、会場との打合せ、プレ大会の実施、協賛金の確保等、順次進めていく予定である。

最大限の努力を重ね、より良い会となりますよう努力してまいります。皆様のご参加をお待ちしております。

### 編集後記

全高書研会報八十七号をお届けします。全高書研会長の荒井利之先生(川崎市立川崎総合科学高等学校長)をはじめ、ご多忙極まりない中、ご執筆いただきました先生方には深く感謝申し上げます。また、元号が令和になり初めての会報に携わることができ、光栄に思います。

昨年度七月には、西日本を中心とする梅雨前線の影響による集中豪雨に見舞われ、甚大な被害がありました。今年度は、その被害に遭われた岡山において、全高書研大会が開催されますが、大変な状況のなかでの準備には腐心されていることと推察いたします。

さて、いよいよ大会が近づいて参りました。準備も最終段階となり、大変お忙しい時期だとは思いますが、岡山の地において有意義な大会となりますよう楽しみにしています。各都道府県より多くの先生方の参加を心からお待ちしております。

(岸本)



## 大会日程

◇第1日目 11月14日(木) 会場:ピュアリティまきび

9:30～	10:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～15:30	15:45～17:00	18:30～20:30
受付	打ち合わせ 総会	開会式	昼食	授業研究 研究協議	情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 11月15日(金) 会場:ピュアリティまきび

8:30～	9:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～14:20
受付	分科会(研究発表) 研究協議	全体会・閉会式	昼食	講演会

※併催展 岡山県高校生書道展(岡山県天神山文化プラザ 17時まで)

## 授業研究・研究協議 11月14日(木)13:10～15:30

<b>A 研究テーマ</b> 【『漢字の書』空間把握を印との関連から考える表現活動】 ◇[書道Ⅱ]「創作 ～創作への道程～」 岡山県立岡山一宮高等学校教諭 <b>北村 博典</b>
<b>B 研究テーマ</b> 【『仮名の書』他教科との連携を通して生徒の感性に働きかける学習活動】 ◇[書道Ⅰ]「仮名文字に託す日本の四季」 岡山県立倉敷商業高等学校教諭 <b>梶谷 純子</b>
<b>C 研究テーマ</b> 【『漢字仮名交じりの書』『間』を捉えて紙面構成力を向上させる表現活動】 ◇[書道Ⅰ]「自分の思いを言葉に込めて ～日本文化から学ぶ書表現の普遍性～」 岡山県立総社高等学校教諭 <b>渡邊 英俊</b>

## 分科会(研究発表)・研究協議 11月15日(金)9:00～11:00

<b>A 研究テーマ</b> 「ICT活用からアプローチする生徒の主体的学習活動」 ◇「タブレット機器活用の実践と考察 ～深い学びへ誘うために～」 兵庫県立青雲高等学校教諭 <b>前田 典子</b>
◇「書画カメラの活用と工夫 ～実演を交えた意見交流～」 岡山県立玉野高等学校教諭 <b>西川 佳宏</b>
<b>B 研究テーマ</b> 「地域の文化から生徒の感性に働きかける学習活動」 ◇「地域の先人の生き方から自己を見つめる ～10年後の自分への手紙～」 岡山県立倉敷南高等学校教諭 <b>板持 裕子</b>
◇「学校所蔵資料を用いた漢字仮名交じりの書の実践 ～一世紀の時を超えて～」 京都府立鴨沂高等学校教諭 <b>西村 大輔</b>
<b>C 研究テーマ</b> 「鑑賞における主体的・対話的で深い学びを引き出す学習活動」 ◇「『生徒のまなざし』を切り拓く段階的指導」 岡山県立玉島高等学校教諭 <b>安原 亜悠</b>
◇「『主体的・対話的で深い学び』を引き出す鑑賞学習に向けて ～福岡県における『書道Ⅰ』の鑑賞学習の状況と授業改善の取組～」 <b>福岡県高等学校書道教育研究部会</b>

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口 和士 先生

情報交換会 11月14日(木) 15:45～17:00 ピュアリティまきび

大会参加費 6,500円

教育懇談会 11月14日(木) 18:30～20:30

ホテルメルパルク岡山 岡山市北区桑田町1-13 TEL 086-223-81011 会費 7,500円

(お問い合わせ先)

第44回全日本高等学校書道教育研究会 岡山大会  
運営委員長 岡山県立岡山南高等学校 平松 啓吾  
〒700-0933 岡山市北区奥田二丁目4-7  
TEL:086-224-2226 FAX:086-224-2229  
E-mail:keigo\_hiramatsu@pref.okayama.jp

事務局長 岡山県立瀬戸高等学校 研山 勇人  
〒709-0876 岡山市東区瀬戸町光明谷316-1  
TEL:086-952-1031 FAX:086-952-1083  
E-mail:hayato\_togiyama@pref.okayama.jp





## 第44回全日本高等学校書道教育研究会 岡山大会 ご案内 (最終案内)

岡山大会テーマ

### 『SHINKA』

～書教育の新たな展開を目指して～

昨年3月、高等学校新学習指導要領が公示されました。グローバル化・情報化やAIの急激な発達など、激しく変容する社会の中で生き抜くための資質・能力・確かな学力の育成を図るために、新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組が求められています。岡山大会は、書教育の可能性を模索し、新たな一步を踏み出す大会となります。

大会テーマは『SHINKA』とし、3つの柱で展開します。

**A「進化」**…時代の変化と書芸術を柔軟に対応させ、表現効果や空間把握の視点をもって、自らの創意を生かし書の美を多面的に捉える取組です。未来を担う生徒たちがこれからの時代を豊かな感性で生き抜けるように支えていきます。

**B「心化」**…書と文学、美術の融合から生まれる風趣を現代の視点をもって感じさせる取組です。自らを育んできた地域の歴史的背景を学び、社会における文字文化との関わりを心に刻んでいきます。

**C「深化」**…名筆や芸術作品に触れる体験を通して、言葉の響きや運筆のつながりによる余韻や間から生まれる表現効果を感じ取らせる取組です。学びの過程の中で物事を捉える視点や考え方を培い、本質を見定める力を育てます。

この3つの「進化」「心化」「深化」それぞれが触媒となり化学反応を起こすことで、新しい時代に繋がる書教育の可能性を見出すことができるのではないかと考えています。

平成30年7月豪雨では、岡山県でも倉敷市真備町をはじめ県内各地で甚大な被害を受けました。全国からの温かい御支援に対し心より御礼申し上げます。このような状況の中で、書教育の果たす役割は大きく、心豊かに未来を切り拓く生徒を育てていかなければならないと強い決意をもって大会に臨んでいる次第です。

令和の幕開けにふさわしい大会となるよう全力で取り組んで参ります。晴れの国岡山での大会に、多くの先生方の御参加を心よりお待ちしております。

会期 令和元年11月14日(木)・15日(金)

会場 公立学校共済組合岡山宿泊所 ピュアリティまきび  
岡山市北区下石井2-6-41 TEL086-232-0511

併催展 岡山県高校生書道展(岡山県天神山文化プラザ)

講演会 11月15日(金) 13:10～14:20

演題 「書の魅力と文学」

講師 島谷弘幸先生(九州国立博物館館長)

会場 ピュアリティまきび





## 第45回全日本高等学校書道教育研究会 福島大会 ご案内 (第2次案内)

福島大会テーマ

### 『豊かな心と生きる力を育む書道教育』 ～文化の力がふるさとの未来を創る～

会 期 令和2年11月12日(木)・13日(金)

会 場 とうほう・みんなの文化センター 福島県福島市春日町 5-54 TEL:024-534-9191

《併催展》 福島県高等学校総合文化祭書道展

日 程

◇第1日目 11月12日(木)

9:30～	10:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～15:30	15:45～17:00	18:30～20:30
受付	総会	開会式	昼食	授業研究 研究協議	情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 11月13日(金)

8:30～	9:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～15:30
受付	分科会(研究発表) 研究協議	全体会 閉会式	昼食	(記念企画検討中) 福島県高等学校総合文化祭書道展

#### 《授業研究》

A 研究テーマ 【漢字の書】 古典に基づく効果的な表現を刻字に生かす授業実践

○「書道Ⅱ」「刻字～表札の制作をイメージして～」

福島県立福島西高等学校 鹿山 俊

B 研究テーマ 【漢字仮名交じりの書】 現代に生きる表現の構想と工夫のための授業実践

○「書道Ⅰ」「ふるさとから未来へ 短歌と写真で思いを伝える」

福島県立相馬東高等学校 柴山奈津美

#### 《研究発表》

A 研究テーマ 書の伝統と地域文化の継承、発展を目指す表現活動の実践

○「未定」

(未定)

○「会津の文化を受け継ぐ漢字仮名交じりの書の実践 什の掟～理想の自分になるために」

福島県立会津学鳳高等学校 上田 彩

B 研究テーマ 生徒の感受性を高め、表現力を培う書道教育の実践

○「感性を磨く授業実践(仮)」

山形県立山形北高等学校 柴田 百合

○「作者との交流を通じて深める漢字仮名交じりの書の学習～イメージマップを活用した作品制作～」帝京安積高等学校 小菅 絵里

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口和士先生(予定)

大会参加費 6,000円(予定)

教育懇談会 日時 11月12日(木)18:30～20:30 Coeur a Coeur Liente(クーラ クーリ アンテ)

会場 福島県福島市上町4-30 TEL:0120-233-809

会費 7,000円(予定)

(お問い合わせ先)

運営委員長 福島県立郡山東高等学校 菊地 良尚

〒963-8832 福島県郡山市山根町13番45号

TEL:024-932-0898 Fax:024-932-1404

E-mail:kikuchi.yoshinao@fcs.ed.jp

事務局長 福島県立白河高等学校 佐藤 真紀

〒961-0851 福島県白河市南登り町54番地

TEL:0248-24-1116 Fax:0248-24-2778

E-mail:sato.maki@fcs.ed.jp